調べ学習ワークシート　５

**学習のめあて**

(平泉にかかわる文学について調べよう)

１．芭蕉の「夏草や」の句の後の同行の弟子曾良の「卯の花に兼房見ゆる白毛かな」に詠まれる「兼房」は、中学教科書の注で「義経の家臣で、老齢ながら最期まで奮戦してうち死にしたとされる」（光村）等とありますが、兼房が登場する軍記物語『義経記』にはさらにどのような人物として描かれていますか。

〔例：義経の家臣である前に、京都で久我の大臣に仕えて乳人として久我の姫君を託さ

れ、後に義経の妻（北の方）となった姫君の育ての親で、白髪の63歳のとき娘を守る

ため義経の家臣となり平泉まで同行し、守り切れずにうち死にした。等〕

２．芭蕉の「夏草や」の句の「兵ども」の「夢」は、「勇ましく戦い手柄を立てること」など考えられますが、「兵ども」の一人である兼房の「夢」はどのようなものだと考えられますか。

〔例：戦争での手柄よりも栄華よりも、まず育ての親として娘の久我の姫君（義経の妻・

北の方）と夫義経と姫君の生んだ子たちが無事で幸せに暮らすことだった。等〕

３．芭蕉が思い浮かべた杜甫の『春望』にある「白頭」と、曾良の「卯の花に」の句にある「白毛」について、「白髪」で表される心情の共通点は何ですか。

〔例：戦争のさなかに家族を思い、守りたかったが守れなかった父親の不安と悲しみを表している。等〕

４．芭蕉が金色堂を詠んだ「五月雨の降り残してや光堂」の句にはどんな意味や気持ちが込められていると思いますか。

〔例：光堂とある金色堂が、風雨にさらされて朽ち果てなかったように、戦争をなくし平和を大切にする人々の祈りや願いも消えてはいない。等〕

調べた中で、**もっと調べてみたいと思ったもの**

上のことについて、**どんなことを調べたいですか**